



Zephyros⁸⁸

国立西洋美術館ニュース

ゼフュロス

ISSN 1342-8071

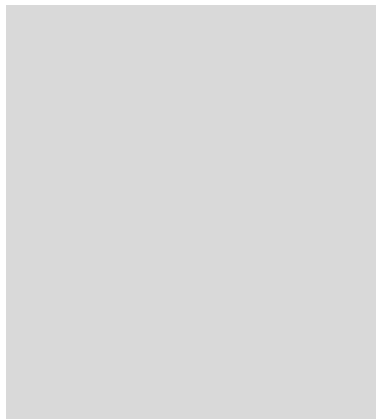
パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展 ― 美の革命

ピカソ、ブラックからドロワー、シャガールへ

2023年10月3日[火] – 2024年1月28日[日]



1



2



3



4

- 1 ロベール・ドロワー〈パリ市〉1910-1912年 油彩、カンヴァス 267 x 406 cm
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne - Centre de création industrielle
(Achat de l'Etat, 1936. Attribution, 1937) © Centre Pompidou,
MNAM-CCI/Georges Meguerditchian/Dist. RMN-G
- 2 パブロ・ピカソ《女性の胸像》1907年6-7月 油彩、カンヴァス 66 x 59 cm
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne - Centre de création industrielle
(Achat, 1965) ©2023 – Succession Pablo Picasso – BCF(JAPAN)
©Centre Pompidou, MNAM-CCI/Philippe Migeat/Dist. RMN-GP
- 3 ジョルジュ・ブラック《果物皿とトランプ》1913年初頭 油彩・鉛筆・木炭、カンヴァス 81 x 60 cm
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne - Centre de création industrielle
(Don de Paul Rosenberg, 1947) © ADAGR, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 E5331
© Centre Pompidou, MNAM-CCI/Georges Meguerditchian/Dist. RMN-GP
- 4 フェルナン・レジェ《婚礼》1911-1912年 油彩、カンヴァス 257 x 206 cm
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne - Centre de création industrielle
(Don de M. Alfred Flechtheim en 1937)
© Centre Pompidou, MNAM-CCI/Philippe Migeat/Dist. RMN-GP



5



6

- 5 ファン・グリス《朝の食卓》1915年10月
油彩・木炭、カンヴァス 92 x 73 cm
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne -
Centre de création industrielle (Achat, 1947)
© Centre Pompidou,
MNAM-CCI/Philippe Migeat/Dist. RMN-GP
- 6 マルク・シャガール《白い襟のベラ》1917年
油彩、リネンのカンヴァス 149 x 72 cm
Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne -
Centre de création industrielle (Dation en 1988)
© ADAGP, Paris & JASPAR. Tokyo, 2023, Chagall® E5331
© Centre Pompidou,
MNAM-CCI/Hélène Mauri/Dist. RMN-GP

20世紀初頭、パブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックという2人の芸術家によって生み出された「キュビズム」は、西洋美術の歴史にかつてないほど大きな変革をもたらしました。その名称は、1908年にブラックの作品が「キューブ(立方体)」と評されたことに由来します。伝統的な遠近法や陰影法による三次元的な空間表現から脱し、幾何学的な形によって画面を平面的に構成する試みは、絵画を現実の再現とみなすルネサンス以来の常識から画家たちを解放しました。慣習的な美に果敢に挑み、視覚表現に新たな可能性を開いたこの「芸術の大革命」は、パリの美術界に大きな衝撃を与え、瞬く間に世界中に広まります。オルフィスム、シミュルタネイズム(同時主義)、レイヨニスム(光線主義)、クボ=フトゥリズム(立体未来主義)、ピュリスム(純粋主義)…いくつかの派生的な運動を次々と生み出しつつ、キュビズムはやがて抽象芸術やダダ、シュルレアリスムへといたる現代美術の様々な可能性を開いていきます。

本展では、世界屈指の近現代美術コレクションを誇るパリのポンピドゥーセンター/国立近代美術館の所蔵品から、キュビズムの歴史を語る上で欠くことのできない貴重な作品が多数来日し、そのうち50点以上が日本初出品となります。キュビズムの豊かな展開とダイナミズムを、主要作家約40人による絵画を中心に、彫刻、素描、版画、映像、資料など約140点を通して紹介します。日本でキュビズムを正面から取り上げる本格的な展覧会はおよそ50年ぶりです。

14章で構成される本展では、ポール・セザンヌやアンリ・ルソーの絵画、アフリカの彫刻など、キュビズムの多様な源泉を探る「キュビズムの源泉」から始まり、ピカソとブラックがそれらを大胆に解釈しながら、緊密な共同作業によって全く新しい絵画を発明する軌跡を追います。さらに、その後のキュビズムの展開に重要な役割を果たしたフェルナン・レジェやファン・グリスら主要画家たち、キュビズムを吸収しながら独自の作風を打ち立てていったマルク・シャガールやアメデオ・モディリアーニら国際色豊かで个性的な芸術家たちを紹介します。後半では、第一次世界大戦という未曾有の惨事を経て、国立西洋美術館本館の設計デザインにもつながるル・コルビュジエらのピュリスムの運動や機械美学が台頭してくるまでを展覧します。

本展のハイライトは、ピカソ12点、ブラック15点というかつてない規模で、2人の画家によるスリリングなキュビズムの造形実験を追体験できることです。一方、ピカソとブラックとは異なるグループを形成し、パリの公的な展覧会を舞台にキュビズム旋風を巻き起こした「サロン・キュビスト」と呼ばれる画家たちの作品も多数紹介します。なかでも初来日となるロベール・ドローネーの傑作で、横幅4メートルにも及ぶ超大作《パリ市》は必見です。

【国立西洋美術館特定研究員 久保田有寿】

もうひとつの19世紀

ブーグロー、ミレイとアカデミーの画家たち

2023年9月19日[火]ー2024年2月12日[月・休]

19世紀後半のフランスおよびイギリス美術と聞いて、みなさんが思い描くのは一体どんな絵画でしょうか。フランスにおけるレアリズムや印象派、あるいはイギリスのラファエル前派や唯美主義による作品が浮かんだ方も少なくないでしょう。しかし、今日エポックメーカーとして俎上にあがる芸術運動と画家たちの背後には、常にアカデミー画家たちがおり、彼らこそが当時の画壇の主流を占め、美術における規範を体現していました。

かれらは、それぞれの国において最も権威ある美術教育の殿堂であったアカデミー——1648年、フランスで創立された王立絵画彫刻アカデミーと1768年にイギリスで誕生したロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ——に属し、古典主義的な芸術様式を遵守した画家たちです。

しかしアカデミーの権威と伝統は、社会の急速な近代化によって揺らぎ、19世紀後半になるとアカデミズムは衰退の危機をむかえます。そんななか、アカデミーで地歩を固めた画家たちは時代の変容や新たな画派の登場に決して無関心ではありませんでした。むしろ変化に富んだ時代において、需要に応じて主題や様式、媒体を変容し制作を行いながら、アカデミーの支柱としてその伝統と歴史を後世に継承しようと努めたのです。本展覧会では、ウィリアム・アドルフ・ブーグロー(1825-1905)やジョン・エヴァレット・ミレイ(1829-1896)をはじめとする両国のアカデミー画家たちのキャリアを辿り、多様化した主題やモチーフ、モデルに焦点をあてることで、その柔軟かつ戦略的な姿勢と彼らが率いた「もうひとつの19世紀」を浮き彫りにします。

[国立西洋美術館特定研究員 浅野菜緒子]



ウィリアム・アドルフ・ブーグロー《小川のほとり》1875年
油彩、カンヴァス 137 x 86 cm 井内コレクションより寄託

前庭ブロンズ彫刻の定期的保存修復作業



美術館では、来館者の皆様に出来る限り最高の状態で展示作品をご鑑賞いただくために、定期的なメンテナンスを欠かすことができません。

当館前庭にはオーギュスト・ロダン作品を中心に大小あわせて6体のブロンズ彫刻を展示していますが、いくつかの作品表面に腐食生成物(いわゆる錆)が発生し始めており、鑑賞の妨げとなっていました。屋外彫刻は、風雨をはじめ砂埃や環境汚染物質などの影響により劣化が進みます。表面保護のためにワックスでコーティングをしていますが、近年の夏の異常な暑さによりワックスの風化サイクルが早まっているように感じます。各彫刻の劣化具合を見極め、1年に1～3体ずつ、2～3年に一度は各作品に保存修復処置を施しています。

今年は6月の展示替え休館中に、ロダン作のブロンズ彫刻作品《考える人(拡大作)》と《カレーの市民》の保存修復作業を行いました。保存修復作業は主に①表面洗浄、②乾燥、③ワックス塗布・焼付・磨きの3工程からなり、保存修復専門家によりおこなわれます。作業時は、作品周囲に足場を組み、足場全体を防塵シートで覆います。皆様に作業の様子をご覧いただけないのは残念ですが、上野公園を通行される皆様や作業者の安全を第一に考慮しています。

暑い夏場や極寒の冬場には過酷な作業ですが、作品を少しでも良い状態で後世に引き継いでいくためにも大変重要な作業です。メンテナンスを終えた2作品を、ぜひご覧ください。

[国立西洋美術館主任研究員 邊牟木尚美]

本館3Dデジタルコンテンツ

ゆびさきでめぐる世界遺産 ― ぐるぐる国立西洋美術館

世界遺産「ル・コルビュジエの建築作品―近代建築運動への顕著な貢献」の構成資産のひとつである国立西洋美術館本館は「無限成長美術館」の構想に基づいて設計されました。この構想の基本的な原理は、中央のホールから渦巻のように外側へ展示室を増築してゆく、というもので、増築する展示室と現在の展示室を繋げるための外壁の窓や中3階

のバルコニー、屋上からの自然光の採り入れや照明器具を設置するための照明ギャラリーと2階の展示室など、様々なところで立体的に空間が繋がっています。現在は安全上の配慮から非公開としているこれらのゾーンをデジタルの世界で自由にめぐり歩いて、ル・コルビュジエが考えた空間構成を直感的にご理解いただけるようなコンテンツを製作しました。

[国立西洋美術館世界遺産担当室 福田京]

空間再現ディスプレイで見る3Dモデル

本館19世紀ホールにて展示

裸眼で立体的に表示される3Dモデルをコントローラーで操作して、本館の断面や19世紀ホール、3階の旧館長室や中3階照明ギャラリーの室内を左右上下に移動したり、水平・垂直方向の断面など、好きな場所を見ることができます。



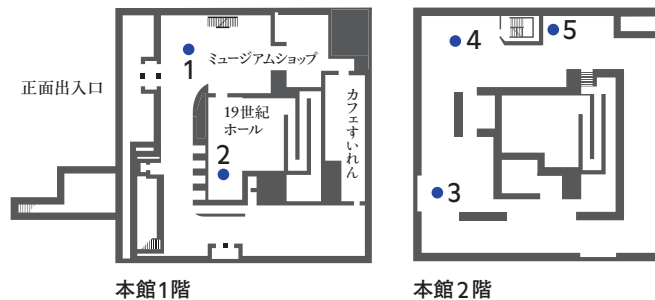
スマートフォン用コンテンツ

館内5か所に設置した二次元バーコードをお手持ちのスマートフォンに読むことで、主に非公開ゾーンを歩くように体験することができます。

- 1 外観と屋上
- 2 19世紀ホール
- 3 中3階バルコニーと照明ギャラリー
- 4 旧館長室
- 5 階段

(3～5のコンテンツを体験いただくには常設展観覧券が必要です。)

二次元バーコードマップ(予定)



Programs

スクール・ギャラリートーク再開

約3年ぶりに、子どもたちが対話をしながら作品を鑑賞する姿が常設展示室に戻ってきました。主に学校団体を対象としたスクール・ギャラリートークは、少人数のグループに分かれた子どもたちとボランティア・スタッフが作品の前で話しをしながら鑑賞する、対話型のギャラリートークです。コロナ下で展示室での活動が制限されたため長く休止していましたが、この春から、ついに再開しました。

休止期間中も学校から多くのお問い合わせをいただいていたこのプログラムは、2005年の開始以来、幼稚園から大学、特別支援学校など、さまざまな学校が図工や美術の授業、総合的な学習の時間、修学旅行、部活動などで参加している当館定番のスクールプログラム



国立西洋美術館
「学校―来館プログラム」



です。対話をとおして、子どもたちが作品をじっくり見ること、感じたことを自分の言葉で表現すること、他の人の意見を聞くことを大切にしながら、鑑賞を深めることを促しています。

学校行事での来館が、子どもたちにとって初めての美術館体験になるかもしれません。美術

館で過ごす時間が少しでも充実するように、再開したスクール・ギャラリートークがこれからもさまざまな学校に活用いただければ幸いです。

(スクールプログラムは事前のお申し込みが必要です。)

詳しくは当館ホームページでご確認ください。)

[国立西洋美術館教育普及室 長谷川暢子]

[CAFÉ すいれん]

営業時間：10:00-17:30 (食事11:00-16:45 | 喫茶10:00-17:15) / 金・土曜日10:00-20:00 (食事11:00-19:10 | 喫茶10:00-19:30)

[ミュージアムショップ]

所蔵作品をプリントした横長の大き判ストールは、装いの主役にもアクセントにもなる人気商品です。ストールの地には200年以上の歴史と伝統を持つ播州織で有名な兵庫県西脇市で作られた綿100%の生地を使用しており、柔らかく、軽く、空気をはらむ心地良い肌触りです。冷房対策や日差し除け、防寒に、季節を問わずお使いいただけます。

柄は2種類ご用意しています。当館を代表する絵画、クロード・モネ《睡蓮》の一部分を大胆にプリントしたものは、水面のブルーに睡蓮の花の色がポイントとなり、巻き方によっていろいろな変化を楽しめます。ラウル・デュフィの《モーツァルト》を生地一面にプリントしたものは、デュフィの軽快な色使いと筆致で装いが明るくなります。

冷えた室内でもさらりとまとうだけで調節できるストールは、美術鑑賞時にも役立つ便利なものです。ぜひ、お出かけのお供にどうぞ。

ストール 睡蓮・モーツァルト 各14,300円(税込)
寸法：たて×よこ 約80×180cm / 約52g | 素材：綿100% | 日本製
●オンラインショップでもお求めいただけます。



オンラインショップ
<https://www.nmwatokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式Instagram
@nmwatokyo_shop



展示カレンダー [企画展示 / 常設展示] 2023年9月 - 2024年2月

9月 [Sep.]	10月 [Oct.]	11月 [Nov.]	12月 [Dec.]	1月 [Jan.]	2月 [Feb.]
常設展					
全館休館 9月4日 [月] ↓ 9月18日 [月・祝]	[企画展] 10月3日 [火] - 2024年1月28日 [日] パリ ポンビドーセンター キュビズム展 — 美の革命 ピカソ、ブラックからドロネー、シャガールへ				全館休館 2月13日 [火] ↓ 2月26日 [月]
	[小企画展] 9月19日 [火] - 2024年2月12日 [月・休] もうひとつの19世紀 — ブーグロー、ミレイとアカデミーの画家たち				

[開館時間] 9:30-17:30 (金・土曜日 9:30-20:00) *入室は閉室の30分前まで

[休館日] 月曜日 (月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館)、展示替期間、年末年始、臨時休館日

[臨時休館・年末年始休館のお知らせ]

2023年9月4日 [月] ~ 9月18日 [月・祝] (展示替えのため)

2023年12月28日 [木] ~ 2024年1月1日 [月・祝] (年末年始休館)

2024年2月13日 [火] ~ 2月26日 [月] (展示替えのため)

[常設展無料観覧日] 11月3日 [金・祝] (文化の日)、10月8日 [日]*、11月12日 [日]*、12月10日 [日]*、1月14日 [日]*、

2月11日 [日・祝]* (*当館オフィシャルパートナー・川崎重工工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」(原則毎月第2日曜日))

● 展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式ホームページをご確認ください。

[常設展]

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

